



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・当初、明戸地区市民体育祭は、中学校と合同開催でなく地域の体育祭として単独で行っていた。
- ・明戸地区は、いわゆる農村エリアで少子高齢化が進んでいる。そのため、地区市民体育祭に必要な選手や参加者が減少しており、今後どのようにイベントを継続していくか、また盛り上げていくかが課題であった。そのような中、明戸中学校から「中学校の体育祭と地域の体育祭と一緒に開催したい」という申し出がありました。公民館としても、地域との交流が深まること、参加者人数が増えることでイベント自体が盛り上がるという理由から、中学校と合同で体育祭を開催している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

・深谷市の地区市民体育祭では、主に地域の方が参加し、その関係者が応援するというスタイルである。しかし、明戸地区の市民体育祭は、深谷市で唯一、明戸中学校の体育祭と合同で行っている。合同開催により地域のとの交流を深めるだけでなく、生徒たちにとっても「自分も地域の一員として参加している」という自覚や郷土愛につながることを期待している。今後も、引き続き、中学校と合同で開催できるよう連携を図っていく予定である。

○体育祭準備等

・体育祭開催にあたっては、準備会議1回、全体会議1回、計2回開催している。会議では、大会実施要領、役員分担内容、当日プログラム等について協議している。中学校の生徒の役割については、事前に打ち合わせ会議で決定している（国旗掲揚、準備体操、選手宣誓等）。

○運営の工夫など

- ・自治会と中学校の合同開催の強みを生かすために、パンくい競争やグラウンドゴルフリレーなど、未就学児や高齢者に配慮した種目をプログラムに盛り込んでいる。
- ・生徒とのふれあいや交流を深めるため、中学生と地域住民と一緒に参加する「ラグビーボール手渡しリレー」を取り入れている。
- ・出場選手確保の負担軽減のため、ふるさと選手枠を導入している（地区に実家があれば、地区外でも出場可）。
- ・スポーツ推進員や地域防犯推進員、小中学校PTAに参加を依頼し、運営ボランティアとしての養成に努めている。
- ・大会終了後、関係者との反省会、公民館運営審議会を開催し、問題点や改善点を伺い、地区住民のニーズを翌年度に反映できるよう、競技種目のルール改正や運営方法を見直しをしている。



体育祭合同会議



ラグビーボール手渡しリレー

3. 取組による成果や効果

- ・普段出会うことがない人たちと交流することで、新しい出会いや発見が生まれる。
- ・競技練習や本番を通して、**自治会の絆や連帯感が醸成**される。
- ・中学校の生徒と地域住民との世代間交流が生まれる。
- ・生徒の親が体育祭に行くことにより、**自治会競技の選手集めが楽**になる。また、体育祭全体として**参加人数が増える**。
- ・生徒が大人と一緒に体育祭に参加することで、「自分も自分も地域の一員として参加している」、「明戸地区は心の通った温かい地域」という**自覚や郷土愛**につながる。



出場選手たちの記念撮影

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・体育祭終了後、自治会長、自治会体育部長、公民館体育部員等が集まり反省会を開催し、種目競技のルール改正や運営方法などの問題点や改善点について意見をいただいている。
- ・学識者や学校、自治会関係者等15名で構成する公民館運営審議会（年5回）でも、取組の検証や問題点等を伺い、次年度に出来るだけ反映する努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

・地区住民の地域活動や住環境等の要望を支援するなど、公民館は、自治会や関係団体等をつなぐサポート役と考えている。地域の方々と一緒に考え、問題点を改善していくなど、**市民が主体とした活動**できる場の提供が重要と考える。



明戸地区芸能祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後人口減少が進行する中、今まで行ってきた事業を全て実施することが困難になっているため、事業のスクラップ・ビルドについて検討していきたい。また、未就学児から高齢者が誰でも参加できる事業について、自治会や関係団体の方と一緒に考えていきたい。

